

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で当たり前」に暮らす・人間の尊厳を大切に」を理念に掲げ、自治会の行事や散歩や買い物など、出来るだけ入居者様に地域に出て頂ける機会を作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事等に参加させてもらっているが、今年度は、インフルエンザの流行もあって、参加回数、人数も少なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、管理者、副主任は、市の認知症コーディネーター養成に参加し、現在、他の事業所と取り組んでいる最中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、評価の報告や、実際の取り組み内容等を伝えたり、入居者の日頃の様子も伝える。また、家族より意見が出やすいように、グループに別れ、意見交換をしたりした。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所での会議や勉強会に参加するとともに、電話連絡だけでなく、必要に応じて市町村担当者へ足を運び、直接、意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は、オートロックになっているが、他の所から自由に外出できる様にはなっている。また、身体拘束の禁止についても、その都度、資料や会議にて身体拘束について説明し、周知する様になっている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やユニット会議にて、説明を行っている。新聞や情報などが入れば、その都度、回覧し、掲示している。また、現場の職員の対応なども、常勤が見直し、ユニット会議にて話し合っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用          管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修などで知る機会は得ている。個々の必要性に対しては、上司とも話し合いながら、手続きをされている方については、経過の報告等もしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その際にも、家族様に尋ねている。それまでにも、契約締結や解除前にも、家族様との話し合う機会を、必要に応じて作っている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関、各階と意見箱は設置している。また、家族より、意見や要望が聞く事が出来た時は、随時、記録に残し、上司に報告、相談させてもらい、早急に対応出来るように努めている。</p>		
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映          代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>4ヶ月に1回の、面談を行っている。それ以外でも、出来るだけ、日々、上司から声をかける様にし、話すきっかけ作りを意識して取り組んでいる。</p>		
12	<p>○就業環境の整備          代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半年に1回、人事考課を行い、職員の仕事や意欲などを評価している。また、給料やボーナスなどは、人事考課が反映されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に参加させてもらい、その研修で知り得た方法を、ユニット会議などで、他の職員に伝え、現場で取り入れている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム交流会を通じ、他のグループホームの方達とも意見の交換が出来る場がある。他事業所の行事にも参加している。</p>		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに施設の見学をして頂く機会を設け、本人が不安を感じている場合、時間をかけ安心して頂ける様本人、家族に話合える機会を持つよう努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに施設の見学をして頂く機会を設け、本人が不安を感じている場合、時間をかけ安心して頂ける様本人、家族に話合える機会を持つよう努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様からの情報や、入居者の方の生活状況で気付いた事は、気付きノートや、センター方式に記録し、職員間で情報共有している。面会時、御家族様に情報提供の協力をお願いしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方自身が出来る事を見極め、一方的な支援にならない様、心掛けていますが、忙しい時など、職員が先回りし一方的な支援になっている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、職員から声を掛けさせて頂き、入居者の方の状況を伝えるとともに、湯茶の接待を行い、気軽に訪問、安心してもらえる雰囲気作りを心掛けています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者自身の理解度、御家族様の意向もあり、馴染みの関係の継続は難しい。御家族様に相談した上で、可能な限り面会には応じている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングやE.V前に、ソファを置き、共有空間の中に入居者同士で自由に過ごせる居場所を確保している。また、関係の悪い入居者間には、適度に職員が介入し、関係作りに努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、何かあればいつでも相談頂ける様に声をかけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位に検討している。入居者の思いや希望は、入居者から訴えがあった時、関わりの中で知る様にしているが、職員の経験、知識不足から思い意向の把握が十分出来ていない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	面会時に御家族様からの情報提供をお願いするとともに、入居者の方からも情報をきき、センター方式に記録、ユニット会議で話し合う機会を作り、職員間で情報共有、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方の状況を把握し、ケースに記録する事で、全体との関わりや、位置関係を把握する様、努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、事前に入居者及び家族様の意向を聞いた上で、その意見を元に、月2回ユニット会議を開き、作成している。また、必要に応じて随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	期間に応じた見直しと、必要性がある時の新たな介護計画の作成、入居者の方の日々の様子をケースに記録は出来ているが、情報の共有が十分出来ておらず、介護計画に活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人本部の行事に参加したり、生きがいデイサービスに参加している。事業団本部の協力体制もあり、事業団全体での対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練の実施など、必要に応じ、関係機関へ来苑他の依頼をしている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族様の希望をふまえ、訪問診療希望の方は青山クリニック受診。それ以外の方は家族の方が希望される病院受診。受診の送迎、付き添いを行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	デイサービス看護師が、月曜日から土曜日まで常時おり、相談に応じたり、適切なアドバイス、受診の指示等、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は家族の方から情報提供して頂き、家族様を通して病院関係者との関係作りに努めるとともに、入居者が安心して過ごせる様対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、職員が十分理解出来ておらず、取り組めていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを整備するとともに、ユニット会議で説明し周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、非常訓練を実施している。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや、敬意を込めた態度で接する様指導している。記録等の個人情報は保管庫に入れ鍵を掛け、管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の自己選択、自己決定に努め、常に入居者の方が、納得される様な関わりを意識する様に努めている。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先と理解していても、目先の業務に忙しく、自然に業務優先になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型について、入居者の意向や好みに配慮するとともに、希望に合わせて理美容の利用や、外出が難しい方には、訪問散髪を利用するなど、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備から、調理、片付けまで、入居者が主になる様に職員と一緒にいき、食事作りの過程を通じて食事を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	献立は全職員一週間ずつ作成し、和食を中心に野菜を多く摂取出来る様工夫し、一日の食事摂取量や水分摂取量はケースに記録し把握、水分量は、食事時を中心に、無理のない摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入居者の状況に応じて、毎食後、声掛け誘導、一部介助を行っている。自立されている方は、自身でうがい歯磨きを行っている為、口腔ケア後の確認が十分出来ていない。		

43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声掛けさせて頂くなど、トイレでの排泄や、自立に向けた支援をおこなっている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事では和食を中心にし、野菜を多く摂取する事で食物繊維をとれる様意識し、水分摂取量にも気をつけている。排泄については、長期に排泄が無い場合、看護師に相談対応している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>朝から夕食後20時まで、いつでも入浴出来る様準備しており、入居者の希望に合わせて、ゆっくり入浴が楽しめる様に支援している。</p>		
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>食事スペースだけではなく、ソファー・テーブルを設置し、休息できる場所を作っている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療用ファイルや、処方箋ファイルを作成し、職員が理解しやすく、与薬の処方変更にも柔軟かつ正確に対応出来る様にしている。与薬後の体調変化は、速やかに看護師に相談指示を仰いでいる。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の得意な事、楽しみ、出来る範囲の役割分担などを見つけ、支援しているが、時間が作れない時など、職員の一方向なおしつけになっている。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散髪、散歩、マッサージ、墓参りなど、希望があれば、外に出掛けられる様支援している。また、天気が良い日などは職員から声を掛けるなどし、希望の表出がしやすくなる様心掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様に協力をお願いし、個々の訴えがあった場合に、金銭の所持を自己管理にて行っている。所持されない方も、食費の計算を手伝って頂き、金銭を扱う事を意識出来るよう、工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	季節には、入居者の方から御家族様へ、頼りを出すよう勧め、御家族他からの書簡は、遅滞なく入居者の元へ届くよう心掛けている。電話の要望あれば、ご本人が電話して頂ける様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングを入居者の手作りの折り紙で飾り、季節感を取り入れながら、居心地よく過ごせる工夫をしている。採光についてはカーテンやのれんを利用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	E V前にテーブルやソファをおき、入居者の方がいつでも、くつろげる空間がもてる様、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の入居者の方が使用されていた家具など、居室に持参して頂ける物があれば、御家族様に協力を依頼している。また、入居後も、個人の嗜好から写真を掲示したり、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事を主に、入居者の方が出来る事を職員が見守りながら、一緒に行っているが、男性入居者には役割的機会が少なく、工夫できていない。		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者の</li> <li>②利用者の3分の2くらいの</li> <li>③利用者の3分の1くらいの</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の3分の2くらいが</li> <li>③利用者の3分の1くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者と</li> <li>②利用者の3分の2くらいと</li> <li>③利用者の3分の1くらいと</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
66	職員は生き活きと働けている		<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおむね満足していると思う		<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族が <input checked="" type="radio"/> ②家族の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない